

滋賀県立虎姫高等学校の授業視察

令和8年2月9日(月)

本校は国際バカロレア (IB) 導入を進めているところですが、高校段階のデュプロマプログラム (DP) の授業準備を担当する先生が I B 科目の文学、歴史、数学、化学、物理、英語の授業を視察するために、滋賀県立虎姫高等学校を訪問しました。

はじめて虎姫高校を訪れた先生もいましたが、県立高校どうしということもあり本校はこれまでも数回訪問させていただいている学校です。

雪での交通障害が心配される中、今回は授業視察だけではなく、授業を担当している先生との懇談を設けていただいたので、授業内容から教材準備、苦勞されている点や開校に至るまでの準備など、多岐にわたり本校職員が疑問に思っていることを聞くことができました。以下はその概要です。



【 I B 文学】

文学作品に対して、生徒自身が「なぜ他の動物ではなく虎が選ばれたのか」といった問いをたて、それに対して全員で考えるという話し合いを中心とした授業が行われていました。生徒自身が「作品を読む」ことについて主体的に関わっている様子を見ることができました。授業後には担当者の先生から直接ご助言をいただくことができました。

【 I B 歴史】

第二次世界大戦へのヨーロッパの動向について、生徒が史料読解を行い、分析した内容についてまとめてきた文章を再検討するという授業を見学しました。先生や仲間と対話しながら、生徒が粘り強く史料と向き合う姿が印象的でした。

【 I B 数学】

日常の現象や社会現象の中にある「モデル化」できる現象を探しました。また、モデル化した現象を数式で表し、関数電卓を利用して未来を予測する活動をしました。「モデル化」という概念を、生徒たちで共有していく様子を観察することができました。

【 I B 物理】

Internal Assessment (以下 IA) の授業を参観させていただきました。生徒が立てた問いに関して、不確かさや変数について担当の先生が優しく導いていました。今後に生かしていきたいです。

【 I B 化学】

今回の授業参観では、前時間に行った実験のまとめという位置づけでした。単純に実験のまとめというだけでなく、仮説の立て方や推論の仕方、元となる情報の調べ方など後の IA につながるような取り組みを見ることができました。その取り組みも生徒たちが主体となって積極的に議論し、協力しながら進める形であったことが印象的でした。

【 I B 英語】

授業参観では、生徒たちが Diary を読み、内容を理解する場面を参観させていただきました。また、授業見学後の懇談では、毎回の授業の中で工夫されている点や授業計画の立て方、2年間の DP の流れについて詳しく教えていただくことができました。ここで得られた情報や視点を、今後に生かしていきたいです。